|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **学校経営推進費　事業計画書** | | | |
| **１．事業計画の概要** | | | |
| **学校名** | | | 大阪府立港南造形高等学校 |
| **取り組む課題** | | | 授業改善への支援（生徒の学力の充実） |
| **評価指標** | | | １　外部機関の客観的学力診断テストにおける学力の向上  ２　学校教育自己診断における生徒の授業満足度の向上 |
| **計画名** | | | 美術教育最先端“港南造形のICT飛躍的改造”計画　“*Konan　drastic innovation”* |
| **２．事業計画の具体的内容** | | | |
| **学校経営計画の**  **中期的目標** | | | １ 造形活動を通して、「確かな学力」と「表現力・プロデュース力」、「企画力・発信力」の育成  （１） 造形活動を通して、造形文化、造形表現に必要な「確かな学力」、「表現力・プロデュース力」、「企画力・発信力」の育成に取り組む。  ア １年次より、全員がタブレット端末(BYOD)のポートフォリオ活用等による系統的学習習慣を身に付けることで、基礎的な学力を向上させる。また、「学校経営推進費」採択により設置するプロジェクタ（全HR教室）と連動させることで、「表現力・プロデュース力」、「企画力・発信力」を飛躍的に向上させる。「学習動画」を活用し、予習・復習の自学自習の習慣を身に付けさせることで、苦手教科（数学・理科）の克服を図る。  イ 造形教育における圧倒的な知識・実技力を身に付けさせるとともに、少人数展開授業やICTを活用した授業の拡充を図る。  ウ 造形教科、普通教科ともにプレゼンテーションや相互批評を行うことを通して、主体的・対話的で深い学びを充実させる。また、読書活動の促進により、言語活動を充実させる。 |
| **事業目標** | | | * 「ICTを活用した授業改善」により、学校教育自己診断において「授業内容に興味・関心をもつことができている。」の肯定的回答（平成29年度78%、平成30年度84%、令和元年度80%）を、令和４年度には90％に近づける。 * 「発信力」の育成について、卒業時にはすべての生徒がICT機器を活用して、プレゼンテーションができる力を身につけ、造形表現力とともに言語表現力の向上を図る。生徒が自らの考えをプレゼンテーションできる能力に加え、他者の考えも認め、互いに尊重し合えることができる力を育成する。今回、普通教室（15室）への短焦点プロジェクタを設置することにより、生徒が所有するAndroidタブレット端末の活用を促進する。 |
| **取組みの概要** | **整備する**  **設備・物品** | | * 生徒が所有するAndroidタブレット端末と連動した普通教室（15室）への短焦点プロジェクタの設置と生徒用ノートPC40台の設置 * 生徒の学習向上のための質問・相談スペースを職員室前に設置 |
| **取組内容** | **前年度** | 苦手教科・科目克服のための「０時間め授業」の実施（数学科）、前々年度よりの授業改善チームメンバーによる取組み。「家庭学習習慣」と連動して実施し、学力向上につなげる。  第１学年は、個人のタブレットを使った授業を数学科中心に、各教科で展開。 |
| **初年度** | 大阪府教育センターの「パッケージ研修支援」事業を基本に、各教科での授業コンテンツの検討（～８月）、機器使用に向けた教員研修（８月）、カリマネリーダーによる授業実践スタート（９月～）、カリマネリーダーによる公開授業での実践発表と研究協議（11月）、学校教育自己診断（生徒）の分析と情報共有（１月）、教科別活用状況に対する評価（２月）、次年度に向けた教科別活用方法の決定（３月）生徒が所有するAndroidタブレットとChorome bookを連携し、情報の検索・整理やプレゼンテーション資料の作成・発表を行う。  10年経験者研修やアドバンストセミナー受講者による授業公開も含め、各教員の授業スキルの向上及び活性化を図る。 |
| **２年め** | 造形科を含む全教科での活用（４月～）、各教科の代表による公開授業でのICT活用の実践発表と研究協議（７月・11月）、学校教育自己診断の分析と情報共有（１月）教科別活用状況に対する評価（２月）、次年度に向けた教科別活用方法の検討（３月） |
| **３年め** | 造形科を含む全教科での活用（４月～）、各教科の代表による公開授業でのICT活用の実践発表と研究協議（７月・11月）、学校教育自己診断の分析と情報共有（１月）教科別活用状況に対する評価（２月）、次年度に向けた教科別活用方法の検討（３月） |
| **取組みの**  **主担・実施者** | | 主担者： ICT活用授業改善チーム  実施者： 全教員の８割程度を予定（最終的には全教員） |
| **成果の検証方法**  **と評価指標** | | **初年度** | １ 「スタディーサポート」の学力・学習バランス（総合）タイプ③（学力◎学習◎）を現状の50％を60％になるようにする。特に「数学」のGTZ「D1」を「C3」に向上させる。  ２ 学校教育自己診断：「少人数の授業や、関心のある選択授業がある。」「授業に、興味・関心を持つことができている」（令和元年度平均84％）を90％に近づける。 |
| **２年め** | １ 「スタディーサポート」の学力・学習バランス（総合）タイプ③（学力◎学習◎）を現状の50％を65％になるようにする。特に「数学」のGTZ「D1」を「C3」に向上させる。  ２ 学校教育自己診断：「少人数の授業や、関心のある選択授業がある。」「授業に、興味・関心を持つことができている」を90％に近づける。 |
| **３年め** | １ 「スタディーサポート」の学力・学習バランス（総合）タイプ③（学力◎学習◎）を現状の50％を70％に近づける。特に「数学」のGTZ「D1」を「C2」に向上させる。  ２ 学校教育自己診断：「少人数の授業や、関心のある選択授業がある。」「授業に、興味・関心を持つことができている」を90％に近づける。 |